

専教寺報

題字 大橋曾水

浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺
〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033

TEL. 0866-82-0488

URL. <https://www.senkyoji.com/>

E-Mail. senkyoji@senkyoji.com



ご挨拶

住職 釋 龍生

新年あけましておめでとう
ございます

今年もよろしくお願
い申し上げます

お正月の料理といえば、おせち料理である。色とりどりの食材が、とても煌びやかで目の保養にもなり、何重もの御重に入っている感じが、新たに新年を迎えた緊張感や高揚感をもたらしてくれる。毎年のことであるが、何から箸をつけようかと迷ってしまふほどの、一年で最初のご馳走である。しかしおせちのような

ご馳走に匹敵する食べ物がある、この世には存在する、と個人的には思っている。

「おせちもいいけどカレーもね」というフレーズを流すレトルトカレーのCMが、子供の頃、正月の時分によく流れていた。今でもこのフレーズを、正月を迎える度に思い出すことがある。

カレーという食べ物には、それぞれ家庭の味があつて、味に関しては、まずはずれることが無い。福神漬か、らっきょうを皿に添えて卓にのぼるカレーは、いつもの味で安心して頬張れる。初老に差し

掛かる年齢ではあるが、変わらず大好物な食べ物である。

山陽新聞に、「孤高のグルメ」の作者、漫画家の久住昌之氏についての記事を見つけた。久住氏は「アンソロジーカレーライスニ」という本の中で、カレーライスは危険な食べ物だ。

あの匂いには、食い意地を凶暴化させる何かがある。空腹時に吸引すると食欲が瞬間沸騰する。家でカレーライスをやると、絶対にニ皿以上食べる。腹が完全にいっぱいになるまで食べないと、納得しない。(中

略)ガツガツ食う。と語られる。わたしも同感である。カシーという食べ物、私たちに家庭の歴史ともいふべき、懐かしさや安心感をもたらしてくれる。

浄土真宗のご本尊、アミダさまは、私たちが人生を歩んでいく上で、安心して生きてゆける、死んでゆける、そんな故郷とも言うべき還る場所を、ご用意くださっている。それは私たちが救い仏とならしめるための渾身の願い(ご本願)を叶えて、建立されたお浄土である。そしてアミダさまは、私たちを救うと誓って完成された、真実のおはたらき(お念仏・南無

阿弥陀仏)を常に届けてくださっている。そのアミダさまのおはたらきによって、還っていく場所が確実に用意されて、救われていくことが確実に約束されている。まさに蓮如聖人の「御文章」聖人一流章にある、

仏のかたより往生は治定せしめたまふ
ということである。

私たちは皆、娑婆という苦海を一生懸命泳いで、泳いで、泳ぎきろうと、辿り着けるかどうか、あるかどうか分からない岸をめがけて、迷いながら生きている。しかしアミダさまは、そんな私たちを優しく抱きしめながら、「必ず救う、我にま

かせよ、だから安心して、思い切って人生を全うしてゆけ」と、この身に寄り添って道筋をお示しくださる。私たちはアミダさまが、そんな迷いに満ちた逡巡を吹き飛ばすかのように、いつも背中を押してくださいさっていることを忘れてはならない。

今年「御生の一大事」という言葉を噛みしめながら、アミダさまから常にいただく救いのおはたらきに感謝して、安心して二心なく素直にお念仏をいいたく。そんな一年にしたい。



仏教讃歌

毎月第2火曜日 午後1時30分～(変更あり)

講師：奥野 純子 (ソプラノ)

ご近所の門信徒を誘って、ぜひご参加ください。

お待ちしております。



坊守

佐々木 ひろみ

あけましておめでとう
ございます

昨年は大変お世話にな
りました

本年もよろしくお願
いいたします

昨年は、元旦会、永代
経法要、報恩講法要など
の大きな法要が無事勤修
されました。また、それ
ら法要前の奉仕作業では、
たくさんの方にお世話に
なりました。

振り返ってみますと、
ご縁だなあと思うことが
数々ありました。

昨年の報恩講法要のこ
講師は、佐賀県の先生、

また、一昨年のご講師は、
大分県の先生でした。個
人的なことなのですが、
私の父方の祖父母は佐賀
県、母方の祖父母は大分
県におりました。滋賀県
に住んでいた私にとって
は遠方で、年に一回ぐら
いしか行けませんでした
が、とても懐かしく、い
い思い出がたくさんある
地です。法要が終わって、
ご挨拶に行った際、その
ような話をすると、どち
らのご講師も、「ああ、
そうでしたか。それは、
ご縁ですね。」とおっしゃっ
て、「近くには・・・が
ありますね。私もよく知っ
ていますよ。」などと、
温かく受け入れてくださ
り、楽しく会話ができま

した。とてもうれしい気
持ちになりました。

日頃から、お寺や仕事
関係で、人と出会うこと
は多いほうだと思えます。
その方々と少し話してみ
ると、共通の人や場所で
つながることが多々あり
ます。よく「世間は狭い
ね。」と言いますが、こ
れも「ご縁」だと思いま
す。

急に心が明るくなるよう
なものではありませんが、
阿弥陀さまの救いがいつ
もはたらいてくださって
いると思うと、心の底が
温かく、いつでも安心し
て過ごすことができます。

今年も、「ご縁」に感
謝して、過ごしていきたい
と思います。

このように、人との
「ご縁」に出会うと、心
がパッと明るくなり、
「明日も頑張ろう」とい
う元気すら湧いてきます。

私たちは、「南無阿弥
陀仏」のおはたらきとい
うご縁により、阿弥陀さ
まに見守っていただいで
います。前述のように、



挿絵 内村 壽美子

光壽無量

新年あけましておめでとうございます
旧年中はお世話になりました
本年もよろしく願い申し上げます
令和7年 元旦

一乗山 専教寺 総代・仏婦役員一同

専教寺からのお知らせ

仏教讃歌（毎月第2火曜日）
※日時変更あり
1月14日（火）午後1時30分～

永代経法要

4月27日（日）時刻未定
決まり次第、お知らせいたします

